

2015年度

私立大学図書館協会研究助成
機関研究報告書

大学図書館における漫画コーナーの設置とその効果
～郷土（宮崎県）出身漫画家との接点を求めて～

目次

1	研究の目的	2
2	宮崎学園図書館に漫画コーナーを設置することに対する是非 ーアンケート結果ー	2
3	大学図書館における漫画購入に関する意識と現状	5
4	漫画コーナーの設置とその効果	
	(1) 設置の経緯	8
	(2) 漫画コーナー設置による効果（入館者数、貸出冊数、リクエスト点数）	9
5	漫画コーナー設置における成果と課題	
	(1) エッセイ・論文の募集	12
	(2) 漫画から活字本へ	12
	(3) 学生と職員との交流	13
	(4) 漫画の選書と今後	14

資料

1	宮崎学園図書館漫画コーナー設置に関するアンケート	15
2	第66回九州地区大学図書館協議会総会 承合事項7	16
3	写真	16
	*現在の漫画コーナー 当初の漫画コーナー	
	*郷土出身漫画家コーナー 郷土出身作家直筆イラスト 赤星たみこ氏・磐秋ハル氏・池田晃久氏・吉富昭仁氏・横山裕一氏	
	*イラストレーター上杉忠弘氏の寄贈作品	
4	英語版漫画 漫画に関するエッセイ・論文募集チラシ	
※	参考資料 新聞掲載記事	20
	宮崎日日新聞・夕刊デイリー	

2016年3月31日

宮崎学園図書館（宮崎国際大学・宮崎学園短期大学）

大学図書館における漫画コーナーの設置とその効果
～郷土（宮崎県）出身漫画家との接点を求めて～

宮崎学園図書館：菅邦男 小橋智子 山元奈々 羽生由三子

1 研究の目的

本研究の目的は、「大学図書館に漫画コーナーを設置することによって如何ほどの活性化が見られるか」等、大学図書館における漫画導入の効果を探ることにある。

宮崎学園図書館ではこれまで「大学図書館は学生に利用されてこそ存在意義がある」との考えのもと、多読賞の設定（25年度）、ビブリオバトルの実施（26年度）、学生教職員の絵画展示（26年度）、その他のイベントを行い、活性化を図ってきた。

漫画については、原則としてリクエストも受け付けておらず、所蔵している少数の漫画も殆どが寄贈によるもので、配置場所も関連分野毎にばらばらという状態だった。大学図書館に漫画を置くという発想は無かったのである。

漫画の需要がいかに多いかに気付かされたのは、多読賞やビブリオバトルに関する学生との対話の中においてであった。「僕たちは漫画しか読みません」と言う男子学生もいた。活字本は読まないという学生でも漫画にはとても詳しい。漫画のレベルも向上し、学生に読ませたいと思う作品も多い。例えば、『かくかくしかじか』（東村アキコ著 集英社）には漫画家になるまでの青春時代の迷いや焦りが故郷・宮崎市を舞台に描かれている。地方にいるが故の悩み焦りには、共感するものがあると思われる。東村氏はこの作品で『マンガ大賞 2015』（主催：マンガ大賞実行委員会）を受賞している。農業高校を舞台にした『銀の匙』（荒川弘著 小学館）もユーモアを交えながら若者の悩みを扱っており、考えさせられる作品である。『マンガ大賞 2012』他を受賞し、映画化もされている。漫画があれば、もっと学生は図書館に足を運んでくれるのではないか。何より、学生に漫画導入の要望があるのであれば、活字本だけでなく、大学図書館としてその要望に応えるべきなのではないか。

要望に応えるためには、潜在的なニーズを数的に明確にする必要がある。教員には「大学図書館は学術書を収集すべき。漫画は相応しくない」と考える人もいる。ニーズを顕在化し、学生の現状を知らしめなければならない。

そこで館内に整備中であったラーニングコモンズ空間（東側1階 137 m²）に漫画コーナーを設置することを考え、その是非を学生・教職員に問うことにした。漫画や絵画による癒し空間を設けたいと思ったのである。

2 宮崎学園図書館に漫画コーナーを設置することに対する是非 —アンケート結果—

【学生へのアンケート】 27年4月実施

学生へのアンケートは宮崎国際大学（国際教養学部、教育学部）・宮崎学園短期大学（保育科、現代ビジネス科）を対象に無作為に行った。その結果 478名（国際教養学部 95、教育学部 41、短期大学 342）の回答を得た。

（注 全学生数 919 人。教育学部は 26 年度に発足したばかりで学生数が少ない）

アンケートの主な問いは次のとおりである。

- 1) , あなたは日頃、漫画本や活字本（文章のみで構成された本）を読みますか？
- 漫画本も活字本もよく読む
 - 漫画本は読むが、活字本はほとんど読まない
 - 漫画本も活字本もほとんど読まない
 - 活字本は読むが、漫画本はほとんど読まない
- 2) , 宮崎学園図書館に漫画本コーナーを設置することについて、どのように思いますか？
- 賛成 反対 どちらとも言えない
- 3) , Q2で「賛成」と答えた方へ：理由を教えてください（複数回答可）
- 漫画は日本の誇るべき文化
 - 読むとくつろげる
 - 漫画本も活字本も、色々読みたい
 - 漫画で国際交流ができる
 - その他（理由： _____）
- 4) , Q2で「反対」と答えた方へ：理由を教えてください（複数回答可）
- 漫画は子どもの読むもの
 - 漫画は低俗で本とは呼べない
 - 図書館で購入するべきではない
 - 漫画を買う費用で活字本を買って欲しい
 - その他（理由： _____）
- 5) , Q2で「どちらとも言えない」と答えた方へ：理由を教えてください（複数回答可）
- 内容による
 - 漫画本を読まないので分からない
 - その他（理由： _____）

*以下、略（資料1）

「宮崎学園図書館に漫画コーナーを設置すること」に対して、478名中381名、約80%の賛成を得た。国際教養学部58%、教育学部83%、短大85%の賛成である。

*賛成 381名（80%）

国際教養学部 55名（58%） 教育学部 34名（83%） 短大 292名（85%）

*反対 13名（3%）

国際教養学部 11名（12%） 教育学部 1名（2%） 短大 1名（0%）

*どちらとも言えない 84名（17%）

国際教養学部 29名（31%） 教育学部 6名（15%） 短大 49名（14%）

反対と答えた学生は3%弱で、理由は「図書館で購入するべきではない4名。漫画を買う費用で活字本を買って欲しい4名」である。その他の理由は「個人の趣味であって図書館で揃える必要性を感じない。他の雑誌購入にお金を使って欲しい。漫画を読むだけに来る人が増えて勉強の邪魔になる」等で、中には「盗難される恐れがある」というのもあった。形態

的に漫画は持ち出しやすいということだろうか。それとも、盗難の恐れがあるほど漫画は魅力的だということか。

「どちらとも言えない」理由は、「内容による」44名（52%）、「漫画本を読まないの
で分からない」33名（39%）である。「内容による」のはもっともだが、それはむしろ漫画に限ったことではない。

いずれにしろ積極的な反対は478名中13名の3%弱であり、漫画コーナーの設置は概ね
学生の賛同を得たと言って良い。

「賛成」の理由は「読むとくつろげる」が最も多く、延べ447名中157名で35%であ
った。次いで「漫画は日本の誇るべき文化」122名（27%）、「漫画本も活字本も、色々読み
たい」114名（26%）と続き、「漫画で国際交流ができる」は41名（9%）である。学生に
とって漫画は「癒やしてくれる存在」なのである。

「1、あなたは日頃、漫画本や活字本（文章のみで構成された本）を読みますか？」と
の問いに対しては、次のようになっている。

- *漫画本も活字本もよく読む 119名 25%
(賛成102 反対3 どちらとも言えない14)
- *漫画本は読むが、活字本はほとんど読まない 161名 34%
(賛成145 反対1 どちらとも言えない15)
- *漫画本も活字本もほとんど読まない 165名 35%
(賛成113 反対7 どちらとも言えない45)
- *活字本は読むが、漫画本はほとんど読まない 33名 7%
(賛成21 反対2 どちらとも言えない10)

「漫画本も活字本もほとんど読まない」と答えた学生が165名（35%）いるが、そのう
ち約68%の学生が漫画コーナー設置に賛成している。漫画コーナーが設置されれば、それ
だけの学生が来館する可能性があるということである。

【教職員へのアンケート】

教職員へのアンケートでは、配布数114のうち回答数は41で、約36%（大学26%、短
大47%）の回収率であった。回収率の低さが何を意味するか定かではないが、無関心、暗
黙の拒否、あるいは戸惑いの表れなのかもしれない。

回答者41名の内、賛成23（大学7、短大16）、反対4（大学4、短大0）、どちらと
も言えない14（大学9、短大5）であった。賛成数は全体の56%である。

賛成理由「その他（自由記述）」では、「漫画で学ぶこともある。図書館への学生誘導
になる」「図書館へ足を運ばせるきっかけにもなる」「漫画であれば学生も手にしやすい
のではないかと思う」「選択肢を広げる意味で賛成」「Manga help me to learn the Japanese
language.」等があった。漫画コーナー設置の意図がよく理解されていると言えよう。

「Manga help me to learn the Japanese language.」については、逆に言えば、英語の漫画本
を購入することにより英語の効率的な勉強が出来ることを意味する。

◆計 77 館

ア、ほとんど無い	34	イ、少しはある	39
ウ、多い	3	エ、とても多い	1

「とても多い」と回答した館は①でも漫画所蔵冊数を「5～10%未満」と回答しているが、自由記述では「推奨しているわけではないので所蔵数は少ない」としている。基本的に漫画の購入はしないが、学習漫画に限っては教員や学生の要望もあり購入していることである。要望は多いが積極的にはそれに応えていないということであろう。

「多い」と答えた3館は、自由記述でそれぞれ、

- ・日本の漫画アニメーションは国際的に高く評価されているので、基本的には（漫画購入に）賛成である。
- ・世界で注目されている日本独自の発展を遂げたコンテンツを充実させるべき（「学習としての漫画の活用はもちろんのこと、講義の合間でのリフレッシュやリラックスを担う一助として漫画を設置している。今後も充実させていきたい」）。
- ・マンガを研究している教員が居り、マンガコーナーを設置している。

と答えている。

漫画の価値を認めている大学では当然学生の購入要望も多い。これらの館は学生からの漫画のリクエストも活字本同様に受け付けている。

宮崎学園図書館では、従来漫画のリクエストは受け付けて来なかった。が、学生の潜在的なニーズは大きかった。むろん大学にもよるだろうが、要望が「ほとんど無い34 少しはある39」と答えている大学でも、「大学図書館では漫画は購入しない」と学生が思っているが故にリクエストとして出てこないという面があるのではないか。大学図書館の認識と実際の学生の要望とは「ずれ」があるとも考えられる。潜在的なニーズを顕在化する必要がある。

いずれにしろ、多くの大学図書館が学生からの漫画購入の要望は「無い」、あるいはあっても「少し」と認識しているのである。

③漫画のリクエストを受け付けているか。

回答は「ア、受け付けている 26 イ、受け付けていない 51」で、約66%の大学図書館がリクエストを受け付けていない。

④漫画を別置しているか。

回答は「ア、している 22 イ、していない 56」（別館を含め2館分回答した館があるため78館）で、72%が別置していない。

全体に大学図書館では漫画の所蔵冊数は極めて少なく、「学生からの要望も少ない」と考えていることが分かる。

では、「大学図書館として、漫画を置くことへの賛否」をどう考えているのか。

⑤大学図書館として、漫画を置くことへの賛否とその理由（自由記述）

自由記述なので意見を幾つかに分類するのは難しい。

明確に賛意を表明した大学図書館は9大学、約12%である。

◎賛成 9大学（注 「理由」は、文意を損なわない程度に執筆者の方でまとめた）

- *A 公立大学 賛成。漫画に資料的価値を認める。予算が減少しているので積極的に
は推奨していないが、学習に必要として教員が選定したものを購入。
- *B 私立大学 日本の漫画アニメーションは国際的に高い評価を得ている。基本的には
賛成。年間予算を設定し、リクエストの多い物、教員の推薦があった物、研究目的の物、
評価を受けた漫画を購入。
- *C 私立大学 manga という日本語が世界共通語になっている。世界で注目されている
物なのでコンテンツを充実させるべき。芸術学部を有する総合大学なので、学生からの
要望はもとより、学習としての漫画の活用は勿論、講義の合間でのリフレッシュやリラク
クスを担う一助として漫画を設置している。今後も充実させていきたい。
- *D 私立大学・短大 図書館に滞在し一息つける場所の提供、学生が気軽に来館してく
れる呼び水になってくれれば良いと考えている。
- *E 私立大学 本学でも授業で利用している。特に問題は無いと考える。留学生には
日本理解の資料の一つとして利用されている。
- *F 私立大学 芸術学部の中にマンガ表現コースがあり、必要な資料。
- *G 私立大学 マンガアニメーションコースが有り、参考資料として所蔵している。
- *H 私立大学 マンガを研究している教員が居り、マンガコーナーを設置している。
- *I 私立大学 学生からのリクエストは100%受け入れる。マンガも例外ではない。
今のところ、購入をためらうようなリクエストは出ていない。

積極的に賛成している大学図書館は9大学、約12%である。漫画を日本文化と位置づけ、
研究対象とし、資料的価値を認めている。更に学生に癒しを与えるものとし、来館するき
っかけとなることを期待している。I私立大学に見られるように、学生からのリクエストを
100%受け入れても「今のところ、購入をためらうようなリクエストは出ていない」ところ
もある。リクエストを受け付けることによって学生の選択眼を養うことに繋がるのではな
いか。

◎反対

*明確な否定的意見

- ・マンガを積極的に購入することは想定していない（国立大学）
- ・賛否の議論無し（国立大学）
- ・学術書の収集しか基本的に考えていない（公立大学）
- ・要望は殆ど無い（公立大学）
- ・基本的に置かない（公立大学）
- ・千円以下のものは学生が買うべき。所蔵する必要は無い（公立大学）
- ・漫画を置くことには否定的（公立大学）

- ・漫画を収蔵することには疑問を感じる（私立大学）
- ・賛成しない。学生の希望もない（私立大学）
- ・漫画を置く必要は無い(短大)
- ・図書を購入を優先(短大)

*反対だが条件によっては認める

- ・授業内容に関わる物は別途検討（私立大学）
- ・教育研究活動に必要であれば差し支えない（私立大学）
- ・教員要請の物は受け入れる（私立大学）
- ・内容を確認すれば受け入れても良い（私立大学）
- ・学習漫画は賛成（私立大学）
- ・日本の古典や高評価作品の外国語翻訳に限る。積極的には置かない（私立大学）

「授業に関わる物」「学習漫画」など条件によっては認めるという館も基本的には否定的であり、約 88%の大学図書館は漫画を受け入れることに消極的だということになる。

4 漫画コーナーの設置とその効果

(1) 設置の経緯

大学図書館の約 88%が漫画導入に消極的という現状の中、平成 27 年 4 月に漫画コーナーを仮オープンし、貸し出しを開始した。同年 3 月までに所蔵していた漫画は 609 冊で、4 月中に購入配架した 236 冊を加えての出発である。

漫画コーナーの正式オープンは、平成 27 年 7 月である。7 月にずれこんだのは、宮崎県出身の漫画家さんにイラスト入りサインの寄贈をお願いしていたからである。漫画コーナーに「宮崎県出身漫画家の作品コーナー」を特設し、寄贈して戴いた自筆のイラスト入りサインを展示したのだが、それが揃ったのが 6 月だった。郷土出身漫画家 16 人の作品を可能な限り収集配架し、赤星たみこ、池田晃久、東村アキコ、吉富昭仁、横山裕一、磐秋ハルの各氏にイラスト入りサインを依頼した。皆快く承諾して戴いたのだが、東村アキコ氏は多忙なため未着である。大暮維人氏のように連絡が付かず断念したケースもある。イラストレーターとして著名な上杉忠弘氏（宮崎県延岡市出身）には、7 点の作品を寄贈して戴いた。

漫画コーナーは図書館東側 1 階ラーニングコモンズ空間に設置した。漫画コーナー設置「賛成」理由として学生が挙げたのは「読むとくつろげる」が最多で、35%を占めた。したがって漫画コーナーも、くつろいで読める場にと考えたのである。ここにはゆったりした机と椅子が配備され、多くの学生で賑わうようになった。漫画は貸し出しだけでなく、ここで読まれているものも多いのである。たまにはあるが、地域の小学生が読んでいる姿も見られた。

しかし短大本館の耐震補強工事に伴い、事務部が半年ほどこの空間に入ることになり、平成 28 年 3 月現在では漫画コーナーは 2 階に移っている。利用状況は以前とさほど変わらない。

(資料 3)

(2) 漫画コーナー設置による効果（入館者数、貸出冊数、リクエスト点数）

宮崎学園図書館では毎年度達成目標を設定し、年間を通して月毎の「数値目標到達状況」6項目（入館者数、学生貸出冊数、部屋の利用者数、インターネット等の利用者数、学生リクエスト点数、教員購入希望依頼点数）を記録している。このうち、入館者数、学生貸出冊数、学生リクエスト点数が漫画コーナー設置によってどのように変化したか、見ていくことにする。

下記は平成27年度の「入館者数・学生貸出冊数・学生リクエスト点数」の変移である（3月に本稿を執筆したため2月までの集計となっている）。

※ 平成27年度 数値目標到達状況

①入館者数 27年度目標 53,000人以上 26年度実績 54,807人

人数等	月間到達状況											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	5,568	5,945	5,709	7,838	4,018	1,332	7,563	5,151	5,204	5,080	3,755	
累計	5,568	11,513	17,222	25,060	29,078	30,410	37,973	43,124	48,328	53,408	57,163	
到達度	10.5%	21.7%	32.5%	47.3%	54.9%	57.4%	71.6%	81.4%	91.2%	100.8%	107.9%	

②学生貸出冊数 27年度目標 11,947冊 1人当たり貸出冊数目標13冊（学生数919人）

26年度実績 15,904冊 1人当たり貸出冊数実績約17冊（学生数935人）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
冊数	1,303	3,383	1,772	1,754	620	341	2,731	1,774	1,809	1,295	1,120	
累計	1,303	4,686	6,458	8,212	8,832	9,173	11,904	13,678	15,487	16,782	17,902	
達成度	10.9%	39.2%	54.1%	68.7%	73.9%	76.8%	99.6%	114.5%	129.6%	140.5%	149.8%	

③学生リクエスト点数 27年度目標 170点以上 26年度実績 262点

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
冊数	37	75	22	100	0	10	28	58	37	9	9	
累計	37	112	134	234	234	244	272	330	367	376	385	
達成度	21.8%	65.9%	78.8%	137.6%	137.6%	143.5%	160.0%	194.1%	215.9%	221.2%	226.5%	

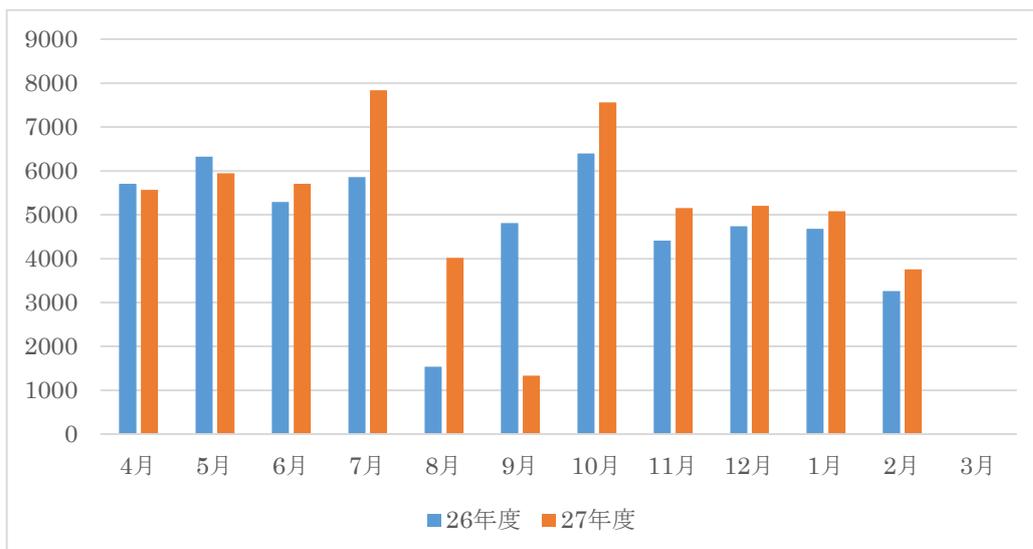
平成27年度の「数値目標到達状況」を見ると、入館者数、一人当たりの学生貸出冊数、学生リクエスト点数、いずれも前年度に比べて増加している。

①入館者数

入館者数は、26年度実績が54,807人である。これは3月終了時点での入館者数だが、2月段階で見ると53,006人である。27年度は2月段階で57,163人と、既に4,157人の増加を見ている。

月々の入館者数の変化をグラフにし、26年度と27年度を比較してみる。

※26年度及び27年度の月々の入館者数



4月、5月の入館者数は27年度の方が26年度よりも若干少ないのだが、6月からは多くなっている。特に7月になって急激に伸びている。7月に漫画コーナーが正式オープンしたためである。郷土出身漫画家やイラストレーターの色紙も揃い、地元の新聞でも大きく取り上げられ、漫画コーナーに学生の関心が向けられたのである。

夏期休業の8月9月は入館者数も減少している。26年度9月の入館者数が多いのは、短大の後期授業がこの年度まで9月開始だったからである。

なお、入館者が学生か教職員かのチェックは不可能である。したがって入館者数の増加が学生によるものか否かは厳密には判断できない。しかし、学生貸出冊数・学生リクエスト点数の大幅な増加から考えて、学生入館者の増加と捉えるのが自然かと思われる。

②学生貸出冊数

両年度共に、学生1人当たり貸出冊数の目標を「13冊以上」に設定している。

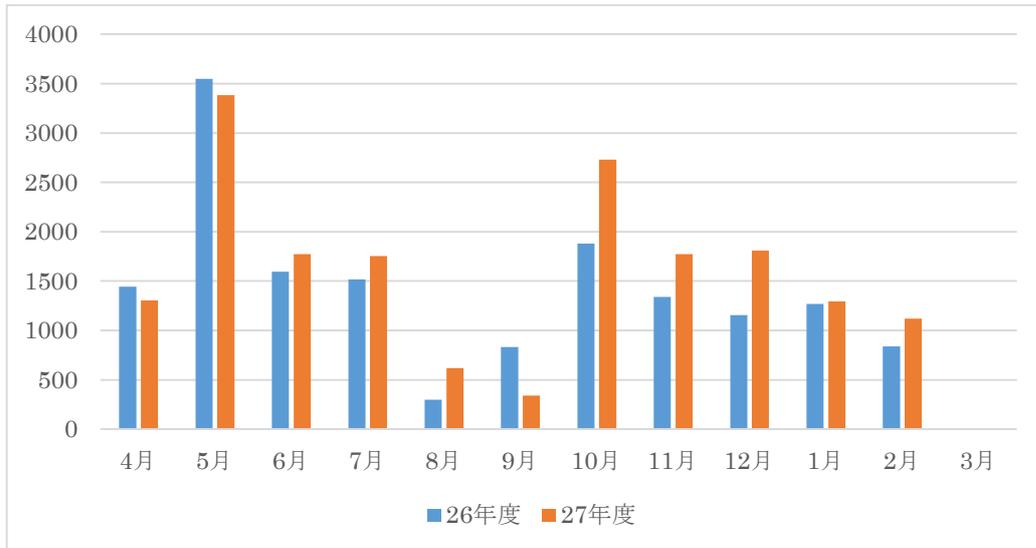
27年度の学生数は919人である。したがって目標貸出冊数は11,947冊である。

26年度の貸出冊数は15,904冊である。学生数935人、目標貸出冊数12,155冊であるから、131%の達成率となる。学生1人当たりの貸出冊数実績は約17冊である。2月段階の貸出冊数は15,711冊、129.3%の達成率である。

27年度は2月段階で貸出冊数17,902冊、149.8%の達成率である。1月が16,782冊なので、1月段階で前年度の最終実績を超えていることになる。

学生数は935人(26年度)から919人(27年度)へと僅かながらも減少している。学生数減にも関わらず、貸出冊数は増えている。

※26年度及び27年度の月々の学生貸出冊数



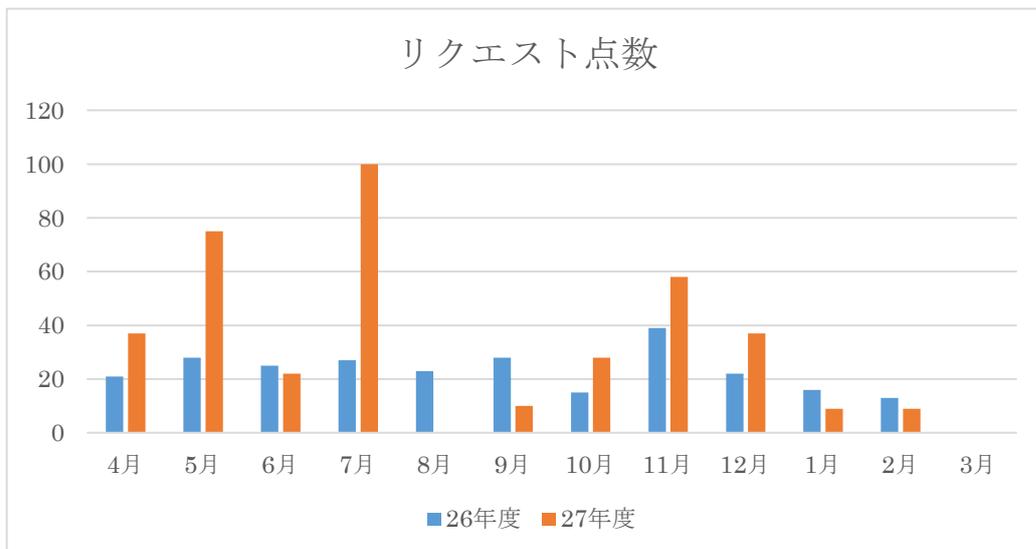
両年度月々の学生貸出冊数を比較してみると、入館者数に比例していることが分かる。4月5月は26年度の方が多くなっているが、他の月は9月を除いて27年度の貸出冊数が上回っている。前述したように、26年度は9月に短大の後期授業が行われている。

5月と10月に両年度共に貸出冊数が突出しているのは、短大保育科の保育・教育実習が行われ、実習関係の資料が借り出されるためと思われる。前期は6月1日から、後期は11月4日からの開始である。図書館では、その直前に資料の展示と貸出を行っている。

③学生リクエスト点数

注目されるのは学生リクエスト点数の増加である。170点以上の目標に対し、26年度実績は262点である。27年度は10月段階で272件と前年度最終実績を超えている。2月段階で既に385点、目標226.5%の達成率である。

※26年度及び27年度の月々のリクエスト点数



27年4月から漫画もリクエストできるようになり、リクエスト点数は前年度に比べて大幅に伸びている。特に漫画コーナーが正式オープンした7月には100件ものリクエストが来ている。その反動か、8月はゼロである。

5 漫画コーナー設置における成果と課題

(1) エッセイ・論文の募集

上述したように、漫画コーナーの設置によって、入館者数、学生貸出冊数、学生リクエスト点数は大幅に伸びた。なかでも、入館者数、学生リクエスト点数の伸びが大きな収穫だった。どれほどの学生が図書館へ興味を持ち、足を運んでくれるか、入館者数はその指標である。「大学図書館は学生に利用されてこそ存在意義がある」と考えるとき、入館者数の増加は欠かせない。また、リクエストは学生が自分で本を選ぶ主体的な行為である。26年度最終実績は262点だが、27年度は10月段階でこれを超えている。2月までで既に目標の226.5%を達成している。漫画コーナー設置なくしては成し得なかったことである。

漫画コーナーの設置には、漫画から活字本へと読書対象を広げて欲しいとの思いもあった。そのためコーナーには漫画に関する歴史、エッセイ、評論等の書籍も置いている。英語版の漫画も多数入っている。漫画を読むことから活字本の読書へと繋げていくことも本研究の目標の一つであった。その手立てとして「漫画に関するエッセイ・論文」の募集を行った。

(資料4)

学生からの応募は、エッセイ14点(短大女子学生)、論文1(大学国際教養学部女子学生)である。エッセイ部門「最優秀賞」「優秀賞」計2名、論文部門「奨励賞」1名を選出し表彰した。夏休み前(7月)に募集を開始し、締め切りは冬休み明けという短い期間だったので、エッセイはともかく研究論文は無理だろうと考えていたのだが、二年生からの応募を得た。題目は「高校生の歴史学習におけるマンガの利用とその効果」である。まだ二年生故に論文には荒さもあるが、調査に基づいた意欲的なもので、将来を期待し奨励賞とした。

(2) 漫画から活字本へ

一方で、課題も残った。

本研究では、当初、「漫画コーナーの設置が活字本貸出増加へ繋がるか」も研究課題として考えていた。しかし結果的に、漫画の導入と活字本の貸出冊数との関係を明確化することは出来なかった。

漫画は平成27年度4月から2月までに893冊を配架した。それ以前から所蔵していた物609冊を加えれば1,502冊である。漫画の学生貸出冊数は2月段階で計3,047冊である。しかし26年度の貸出状況を見ると漫画は殆ど借りられていない。寄贈本で古く、配架場所もばらばらで、学生の興味を引かなかつたのだろう。したがって27年度に借りられた漫画は、殆どが新しく入った893冊だったと思われる。

27年度はこの893冊が2月段階で延べ3,047冊(漫画貸出総冊数は3,623冊)として学生に貸し出されたことになる。2月の貸出総冊数は17,902冊だから、漫画を除いた貸出冊数は14,855冊となる。26年度2月の貸出冊数は15,711冊である。したがって、27年度の一般図書の貸出冊数は前年に比べて856冊の減ということになる。26年度に比べて27年

度の貸出冊数は大幅に増えたが、それは漫画コーナー設置によるもので、一般図書の貸出冊数は僅かながら逆に減ったのである。

*27年度漫画の学生貸出冊数 計 3,047 冊 漫画貸出総冊数 3,623 冊 (2月段階)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
冊数	90	279	350	513	133	68	547	260	464	217	126	(28)

この結果からすると「漫画コーナーの設置は活字本貸出増加へとは繋がらなかった」ということになるのだが、必ずしもそうとも言えないのである。

本学では国際大学教育学部の新設にともない、短期大学の初等教育科、人間文化学科国語国文コースが平成26年4月をもって募集を停止した。学生数も減少し、27年度には読書率の高かった初等教育科、国語国文コースの学生もいなくなり、一般図書の貸出冊数に影響したことが考えられる。それがどの程度なのかは確かめようがない。したがって「漫画コーナーの設置が活字本貸出増加へ繋がるか」の究明は、今後の課題ということになる。

(3) 学生と職員との交流

漫画コーナー設置後どのような変化を感じたか、カウンター業務の職員に聞いてみた。

- ・男子学生の来館が増えた。
- ・今まで利用していなかった学生の来館が増えた。
- ・借りることはしなくても、漫画コーナーでくつろいで読んでいる。
- ・貸し出しの回転がはやい。
- ・カウンターでのコミュニケーションが増えた。

図書館職員も「男子学生・今まで図書館を利用しなかった学生」の来館が増えたことを実感している。漫画コーナー設置によって不読者層、特に男子学生の図書館利用を促そうという目的はほぼ達せられたと言って良い。「カウンターでのコミュニケーションが増えた」のも、漫画ならではの。互いに読んでいる作品や、面白いと思ったものなど、学術書とは違って共通するものが多く、話題にしやすいのだろう。漫画を中にしての「学生と図書館職員との交流」、想定していなかった成果である。

また短大事務職員からは次のような感想が寄せられている。

「大学の図書館に行くことが殆ど無く、会議室予約に伺うだけだった私ですが、興味のある漫画が購入されたことを知り、恥ずかしながら初めて利用させていただいております。

漫画コーナーでは、学生が設置してある椅子に腰掛け、静かに読みふけている姿をよく見かけます。図書館という堅いイメージから少し解放されているようです。その学生たちが、少しずつ他の小説や書籍に興味を抱いてくれることを期待したいと思います。他人事ではなく私も時には漫画以外のものも借りて読んでみなくてはと思っています。

しかし、一方で漫画から知識や考え方等を得ることも多くあると思っています。ですから、これからも様々な方向からのアプローチで漫画書籍の充実も図っていただきたいと思っています。」

職員にも漫画コーナー故に図書館を利用し始めた人がいるのである。漫画の貸出冊数は計3,623冊で、内、学生貸出冊数は3,047冊である。差し引くと576冊が教職員から借りら

れたことになる。今後も「漫画書籍の充実」を図っていき、学生だけでなく教職員にも大いに利用して戴きたいと考えている。

(4) 漫画の選書と今後

漫画の選書に関して担当者は「購入初年度のため手探りだったが、アンケート結果を参考に、学校もの、恋愛もの、スポーツもの等々偏りのないようバランスよく選書した。その際、Web サイト等で内容・評価をチェックし、高評価の物を選んだ。場合によっては Web サイトの試読や書店で現物に目を通し確認した。」と述べている。漫画コーナーが生きるか否かは選書次第である。図書館員が漫画に精通することが充実へと繋がっていく。

漫画から活字本へどう繋げるか、具体的な手立てが必要である。例えば、テーマを設定し、「漫画本+活字本」「漫画本+DVD・CD+活字本」など蔵書を組み合わせて展示する、加えてパネルによる解説、広報を行うなどして活字本へと導く、などが考えられる。

今後は活字本へ繋げることを意識した計画的な漫画購入を心がけ、学生の声を反映しながらコーナーを充実させていきたい。

付記

本研究のメンバーは、菅邦男（館長）、小橋智子（図書課長）、山元奈々（書記）、羽生由三子（書記）である。執筆は菅邦男が担当した。

このような研究機会を設けて戴いた私立大学図書館協会に感謝申し上げます。

資料1

宮崎学園図書館漫画コーナー設置に関するアンケート（学生用）

私立大学図書館協会研究助成によるプロジェクトです。「大学図書館における漫画コーナーの設置とその効果」アンケートへのご回答、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

1. あなたは日頃、漫画本や活字本（文章のみで構成された本）を読みますか？

- 漫画本は読むが、活字本はほとんど読まない
- 活字本は読むが、漫画本はほとんど読まない
- 漫画本も活字本もよく読む
- 漫画本も活字本もほとんど読まない

2. 宮崎学園図書館に漫画本コーナーを設置することについて、どのように思いますか？

- 賛成 反対 どちらとも言えない

3. Q3で「賛成」と答えた方へ：理由を教えてください（複数回答可）

- 漫画は日本の誇るべき文化
- 読むとくつろげる
- 漫画本も活字本も、色々読みたい
- 漫画で国際交流ができる
- その他（理由： _____）

4. Q3で「反対」と答えた方へ：理由を教えてください（複数回答可）

- 漫画は子どもの読むもの
- 漫画は低俗で本とは呼べない
- 図書館で購入するべきではない
- 漫画本を買う費用で活字本を買ってほしい
- その他（理由： _____）

5. Q3で「どちらとも言えない」と答えた方へ：理由を教えてください（複数回答可）

- 内容による
- 漫画本を読まないので分からない
- その他（理由： _____）

6. 宮崎学園図書館に、宮崎県出身の漫画家の作品があれば、読んでみたいと思いますか？

- 読みたい
- 読みたくない
- どちらとも思わない

7. 宮崎学園図書館で購入してほしい、宮崎県出身の漫画家の作品があれば書いて下さい。

- 漫画家の名前（ _____ ） 作品名（ _____ ）
- 漫画家の名前（ _____ ） 作品名（ _____ ）
- 漫画家の名前（ _____ ） 作品名（ _____ ）

8. 宮崎学園図書館で購入してほしい、好きな漫画家の作品があれば書いて下さい。

- 漫画家の名前（ _____ ） 作品名（ _____ ）
- 漫画家の名前（ _____ ） 作品名（ _____ ）
- 漫画家の名前（ _____ ） 作品名（ _____ ）

資料2

第66回九州地区大学図書館協議会総会 承合事項7

大学図書館に漫画（学習漫画を含む）を置くことの是非についてお伺いしたい。（①～④については記号をカッコにお書き下さい）

①現在、大学図書館にどの程度漫画を所蔵しているか（おおよそ、蔵書数の何パーセントを占めるか）。

ア、0% イ、5%未満 ウ、5～10%未満

エ、10～15%未満 オ、15～20%未満 カ、20%以上

②学生は漫画を購入して欲しいと思っているか。図書館は潜在的な要望をどう感じているか。要望は、

ア、ほとんど無い イ、少しはある ウ、多い エ、とても多い

③漫画のリクエストを受け付けているか。

ア、受け付けている イ、受け付けていない

④漫画を別置しているか。

ア、している。 イ、していない。

⑤大学図書館として、漫画を置くことへの賛否とその理由（自由記述）。

資料3

*現在の漫画コーナー（秋に元の場所へ移設予定）



* 当初の漫画コーナー（図書館東側1階）



* 郷土出身漫画家コーナー 赤星たみこ氏の直筆イラスト 他



* 磐秋ハル氏の直筆イラスト



* 池田晃久氏 吉富昭仁氏 横山裕一氏 の直筆イラスト



*イラストレーター上杉忠弘氏の寄贈作品（2階漫画コーナーへの階段踊り場に展示）



資料4 *英語版漫画



*エッセイ・論文募集チラシ

宮崎学園図書館

私立大学図書館協会 2015年度研究助成プロジェクト

**漫画に関する
エッセイ&論文大募集!!**

読んでます!! あなたの漫画にかけを熱い思い! 漫画にまつわるエピソード!!

エッセイ部門	論文部門
(テーマ)：漫画に関することなら何でも	(テーマ)：漫画に関することなら何でも
最優秀賞：図書カード ¥10,000分	最優秀賞：図書カード ¥20,000分
優秀賞：図書カード ¥5,000分	優秀賞：図書カード ¥10,000分
*応募者全員に参加賞あり	*応募者全員に参加賞あり

☆ 応募受付開始：2015年10月1日(木)
 ☆ 応募締切：2016年1月15日(金)
 ☆ 応募資格：宮崎国際大、宮崎学園短期大学の学生のみが応募できます!
 ☆ 結果発表：2016年2月初旬

※ 詳しくは、図書館内掲示、配布募集要項又は宮崎学園図書館ホームページをご覧ください。
 ※ お問い合わせは、図書館カウンターまで!

今年1年、宮崎学園図書館はこんな研究・事業を行います!

**【研究テーマ】 大学図書館における漫画コーナーの設置とその効果
 ～埼玉(宮崎県)出身漫画家との接点を探る～**

☆ 漫画は大学図書館に馴染み深い? 何故? 何故?
 ☆ 漫画を排除するのではなく、良質な漫画本を確保し、活字本の読書へつなげていくことは可能?
 ☆ 日本国内だけでなく、海外でも活躍する若手漫画家出身の漫画家やその作品を知ることで、学生の意識は...?
 ☆ コーナー設置で入館者数は?
 ☆ コーナー設置に関して学外からの反応は?
 ☆ 学生さんの漫画本に関するエッセイや論文の募集! などなど...

昔の染織の技術は、色鮮やかで、しかも、耐久性が非常に高く、現代の染織技術に匹敵するものがある。また、昔の染織は、自然素材の染料を使用していたため、環境に優しいという点も、現代の染織技術に劣らない。昔の染織の技術は、現代の染織技術に劣らない。昔の染織の技術は、現代の染織技術に劣らない。

古代の染織に挑戦してみよう

昔の染織の技術は、色鮮やかで、しかも、耐久性が非常に高く、現代の染織技術に匹敵するものがある。また、昔の染織は、自然素材の染料を使用していたため、環境に優しいという点も、現代の染織技術に劣らない。昔の染織の技術は、現代の染織技術に劣らない。

宮崎県立図書館は、県内出身作家の作品を中心に、漫画コーナーを開設する。このコーナーは、県内出身作家の作品を中心に、漫画コーナーを開設する。このコーナーは、県内出身作家の作品を中心に、漫画コーナーを開設する。

宮崎県立図書館は、県内出身作家の作品を中心に、漫画コーナーを開設する。このコーナーは、県内出身作家の作品を中心に、漫画コーナーを開設する。このコーナーは、県内出身作家の作品を中心に、漫画コーナーを開設する。



県内出身作家の作品を中心に



本誌書きと出版のイラストコーナー

県内出身作家の作品を中心に
宮崎学園図書館 漫画コーナー

今夏、本格オープン

宮崎学園図書館は、県内出身作家の作品を中心に、漫画コーナーを開設する。このコーナーは、県内出身作家の作品を中心に、漫画コーナーを開設する。このコーナーは、県内出身作家の作品を中心に、漫画コーナーを開設する。



県内出身作家の作品を中心に



大学図書館にふさわしい？
活字本へつながるのか？

タウン